

草刈作業の安全マニュアル

— 袋井市役所維持管理課 —

草刈作業 全般編

目次

作業時の服装	・ ・ ・ ・ ・	P 1
始業点検①～⑤	・ ・ ・ ・ ・	P 2 ～ 4
エンジン始動	・ ・ ・ ・ ・	P 5
除草作業	・ ・ ・ ・ ・	P 6 ～ 8
除草した草の処理	・ ・ ・ ・ ・	P 9
終業点検	・ ・ ・ ・ ・	P 9
燃料の取り扱い	・ ・ ・ ・ ・	P 10
トラブル	・ ・ ・ ・ ・	P 11 ～ 15

作業時の服装

事故防止のため、目の防護、体の防護に配慮した作業に適した服装での活動をお願いします。

作業時の
服装は・・・

- 帽子やヘルメット
- ゴーグル
- マスク
- 長袖の上着
- 長ズボン
- 軍手や皮手袋
- 安全靴やゴム長靴



始業点検①（草刈り機）

- 操作スイッチ等の確認をします。
（スロットル、チョーク、ストップスイッチ）
- ※スイッチの位置や形状などは機種ごとに異なります。



始業点検②（燃料）

- 燃料は混合油です。
間違えないようにします。
- 給油の際はポンプなどで
こぼさないようにしましょう。



始業点検③（刃）

- 刃に損傷等がないか確認します。
- 上から見て刃先が左向きになるようにはめます。
- 刃を固定するネジは逆ネジ（左回りで締まる）です。
- 草刈機の刃がしっかり固定されたことを確認します。
- 刃にガタツキなどがあると、切れにくく、危険です。



始業点検④（肩ひもベルト）

- 快適に作業するため、肩ヒモ（ベルト）は、身長にあわせて長さを調節します。



- 腰を反らせすぎず、前に曲げすぎないリラックスした姿勢で刃が地面から数センチの高さで平行になるように調節します。



始業点検⑤（作業場所）

- 作業を始める前に、作業場の状況を確認します。
- 作業の邪魔になるもの、危険なものは撤去するか、目印をつけるなどしておきます。



空き缶・石



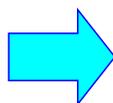
側溝



杭



電柱の支柱



- 側溝や杭等のまわりは鎌で先に刈っておきます。

エンジン始動

- エンジンをかける前に周囲に人や物、可燃物がないかを確認します。
- 草刈機は地面に置き、きちんと押さえてエンジンをかけます。



- エンジンがかかりにくくても絶対に刃に触れて回したりしてはいけません。
- 始動直後にエンジンが高回転にならないよう、アイドルングスロット（全閉状態）の確認をします。
- 手動チョークの場合はエンジン始動後の戻し忘れに注意します。
- 機種によっては、キャブレターに燃料を送る作業が必要な機種があります。
- エンジン始動時の刃の回転に注意します。

除草作業（草刈り機）

面倒がって草刈機で障害物のそばまで刈ろうとすると・・・



こうなったり・・・



巻き込んだ！

・・・こうなったりします。



ガシャン

大きな音が出てびっくりするだけでなく、刃が欠けて飛んだり、障害物自体が飛んできたりします。そこで、際まで刈るときは手刈りをします。

除草作業（手刈り）

- 草刈機で作業しづらい場所は手刈りします。
（腰の負担にならない姿勢で！！）
- 鎌で手刈りするときは、刈りたい草をつかみ、
鎌を当てて引き切ります。



振り回したりすると・・・



こんなことも・・・



除草作業（除草中の注意）

- まわりに人がいないことを確認してから除草作業を始めてください。
- 人通りが多い場所や、石ハネなどで物損するおそれがある場合は、特に全体を見渡す監督員が必要です。
- 作業中はエンジン音で声をかけても聞こえにくく、視野も狭くなっているので注意して近づきます。
- 物を投げたりして知らせることはしてはいけません。

作業に集中すると周囲への注意が散漫になります。



作業範囲、順序などを十分に打ち合わせておきます。

- 長時間作業せず、適切に休憩や水分補給をします（30分作業につき、5～10分休憩）

除草した草の処理

- 虫刺され、草まけ、トゲ刺し等の防止のため、皮手袋や軍手を着用します。



- 雨や夜露で濡れた草は滑りやすいので、足元にも注意します。



終業点検

- ストップスイッチでエンジンを確実に停止します。
- エンジン部分やマフラーは加熱しているので火傷に注意します。
- 燃料漏れや破損の有無を確認します。
- 刃は取り外しておきます。



燃料の取り扱い

- 燃料を扱う際は火気厳禁です。
- 現地では、直射日光や高温になる車内ではなく、木陰などの風通しの良い場所に置きましょう。
- 残った燃料は専用容器に入れます。
- 通気性のある場所に整理整頓して保管します。
- 燃料は始業前に給油し、終業後は専用容器に戻します。



トラブル

①巻き込み

「刃に何か巻き込んだ！」

草、葛、ひもなど刃に物を巻き込んだら、必ずエンジンを停止して、刃の回転が止まってから除去します。

絶対にエンジンをかけたまま除去したりしません。



②刃が回らない・ガス欠

「刃が回らない！」

始動時にエンジンがかかりにくかったり、刃が回転しなかったり、作業中に刃の回転が止まっても、エンジンを切るまでは絶対に刃に触りません。急に回りだすことがあります。

「ガス欠した！」

草刈機の燃料タンクの残量を確認し、混合油を補給します。

機種によってはエア抜き（キャブレターに燃料を送る作業）が必要です。

③ハチ、ヘビがいる

「作業前にハチの巣の所在を知っている」

作業を開始する前に巣を取り除けばよいことは言うまでもありませんが、夏から秋にかけては巣の中の働きバチの数が最多となり、巣の防衛力が高まっているので、容易に巣を取り除くことはできません。

この時期は専門家に巣の駆除を依頼するのが最も良い方法だと考えられますが、それが困難な場合にはハチの活動が終わった夜間、日没後2～3時間後に行うのが良く、スプレー式の殺虫剤等を使用する方法がよく行われています。



「ハチの巣の所在がわからない」

ハチが多く飛んでいるのに、ハチの巣の所在が分からない場合は、その周辺の作業は行わないでください。ハチがいなくても、ハチの巣はどこにあるのかわかりません。ハチが突然現れても良いように、服装に注意してください。一般にスズメバチは「黒」に強い攻撃性を示すことから「白」や「黄色」といった明るい服装とすることが望ましいです。

また、普通の状態では、ハチの針が突き通りにくいように、長袖、長ズボンを身につけ長靴等をはき、つばの広い帽子やヘルメットをかぶり、できるだけ肌や頭を露出しないよう心がけることが大切です。

いずれの場合にも共通のことですが、ハチの巣の側では、巣を刺激しないように注意し、急な動作はできるだけ避けることが大切です。

「ハチに刺された場合の処置方法」

ハチに刺された場合は、まずは適切に処置を行い、安静にしましょう。

- ・刺された部分の針を抜く。
- ・傷口から毒液を絞り出す。
- ・濡れタオルなどで冷やし、安静にする。

「医療施設はどこに行けば良いのか」

- ・基本的には、大人は皮膚科、子供は小児科。
アレルギー症状が重い場合は、救急車を呼んでください。
近くに医療施設があれば、その医療施設を受診してください。

「マムシにあった」

マムシは本来おとなしいヘビで、刺激しなければ大丈夫ですが、秋になると産卵のため攻撃的になり噛まれることがあります。

見つけたら静かに離れましょう。

草むらにひそんでいることが多いので足元には注意し、長靴等をはいて作業するのが望ましいです。

マムシ



「マムシに咬まれた場合の処置方法」

- ・マムシに咬まれた場合は、まず咬まれた傷口より心臓側を布などで軽く縛り、安静にしましょう。
- ・傷口より血を絞り出すようにして毒を体外に出します。
水があれば、血を絞り出しながら、洗浄してください。

「医療施設はどこに行けば良いのか」

- ・すぐに救急車を呼んでください。

④熱中症

熱中症とは、高温高湿の環境下で体温調節や循環機能などの働きに障害が起こる病気で、症状などにより次のように分類されます。

【熱射病】

熱中症の中では、致命率が高く、緊急の治療を要する。突然意識障害に陥ることが多い。発症前にめまい悪心、頭痛、耳なり、いらいらなどが見られ、嘔吐や下痢を伴う場合がある。体温調節機能の失調、体温又は、脳温の上昇を伴う中枢神経障害が原因と考えられている。

【熱虚脱】

全身倦怠、脱力感、めまいがみられる。意識混濁し、倒れることもある。高温暴露が継続し、心拍数の増加が一定限度を超えた場合に起こる。

【熱けいれん】

四肢や腹部の筋肉の痛みを伴い、発作的にけいれんを起こす。作業終了時の入浴中や睡眠中に起こる場合もある。大量の発汗による塩分喪失に対し、塩分を補給しなかったことにより起こる。

【熱疲労】

初期には激しい口渇、尿量の減少がみられる。めまい、四肢の感覚異常、歩行困難などが見られるようになり、失神することもある。大量の発汗で血液が濃縮することによる心臓の負担増大や血流分布の異常により起こる。



●熱中症にならないように、次のような作業を行ってください。

【作業環境】

水分、塩分の補給のためのスポーツドリンクなどや身体を適度に冷やすことができる氷、冷たいおしぼりなどを備えます。日陰などの涼しい場所に休憩場所を確保します。

【作業】

十分な休憩時間や作業休止時間を確保します。
作業服は吸湿性、通気性の良いもの、帽子は通気性の良いものを着用します。

●熱中症になってしまった場合には、次のような措置を行ってください。

【手当の方法】

熱中症は、早期の措置が大切です。少しでも異常が見られたら、医師の手当てを受けてください。
また、救急車、医師等が到着するまでは、以下の1、2の対処を行ってください。

(対処1) 熱射病(日射病)

裸体に近い状態にし、冷水をかけながら扇風機等により風をあてる、氷片でマッサージするなど、体温の低下を図る。

(対処2) 熱けいれん・熱虚脱・熱疲労

涼しいところで安静にして水やスポーツドリンクなどをとらせる。

